

日本外交をつくるもの

2016 年 9 月 28 日

東京ロータリークラブ例会スピーチ

「日本外交をつくるもの」と題させていただきました。「外交政策が日本外交をつくるのではないですか」と皆さまはおっしゃると思います。まったく図の通りですが、それ以外にも大事なものがあると思います。外交政策の根幹にある日本の力、外交のインフラ、実現の手段と言ったようなものです。私は、かつて外務大臣として訪問をしたシリアで、そういったものがいかに大事かを改めて再認識する経験をいたしました。今日はその時の話をしたいと思います。

私がシリアを訪問したのは 2003 年のこと。イラク進攻が終結した後のことで、中東は不安定ではありましたが、シリアは今とは比較にならない位、平和でした。日本とシリアの二国間関係もよく、現在の関係からは考えにくいかも知れませんが、当時のシリアは大の親日国でもありました。

ゴールデンウィークに、イスラエル、パレスチナ自治区、ヨルダンそしてシリアを詰め込んでの中東歴訪でした。訪問の目的は、イスラエルとパレスチナ間の和平の問題や日本の中東政策についての考え方を説明することにあります。

この時、シリアで深く考えさせられることがいくつかありました。新聞の見出し風に言うと、それは「豪壮な白亜の宮殿」であり、「戦車に守られた宮殿」であり、「青年海外協力隊の力」であり、「驚異の電話線の取り換え」です。順番にお話いたしたいと思います。

【豪壮な白亜の宮殿】

まずは、豪壮な白亜の宮殿についてです。私は滞在中にバッシャール・アサド大統領に表敬する機会を頂戴し、出向いた先が小高い丘の上の豪壮な白亜の宮殿だったのですが、これは、丹下健三氏が 1981 年に建てたものです。一国の権力の中枢である大統領宮殿が日本の建築家の手によって建てられたことを私は誇りに思いました。

日本の建築家の海外での活躍には目覚ましいものがあります。黒川紀章氏のカザフスタンの新首都アスタナも現在着々と拡大し続けていますし、中村弘道氏のサウジアラビア王国国王宮殿もあります。

建築は日本の誇る文化力の一部にしかすぎませんが、文化力こそが日本のアイデンティティであり、世界が日本に対してもっている尊敬の源泉だと思います。

文化力と言えばこのほかにも、日本料理、歌舞伎、邦楽から洋楽まで様々なジャンルの音楽、美術、ファッション、アニメ、自然の美しさから日本社会の求心力にいたるまで、世界に誇る様々な力を我が国は持っています。東京ロータリークラブにもこれらの文化の担い手の方は大勢いらっしゃいますが、これらは、日本のソフトパワーです。これらを大事にしていきたいと思います。

大統領宮殿は、空爆で破壊されたという情報は目にしていないので、健在だと思いますし、健在であってほしいと思います。

【数台の戦車】

この宮殿に行く途中、びっくりするものを目撃しました。小高い丘の中腹になんと、戦車が数台止まっていたのです。誰から宮殿を守ろうとしていたのか、いまだに定かではありません。国内の反バッシャール・

アサド勢力なのか、外国なのか、どういうことだったのでしょ。瞬間的に戦国の大名が築いた山城（やまじろ）を想起しました。シリアの安全保障環境ないし国内情勢がそこまで厳しいのかと胸を突かれる思いをし、また、その前に訪問したパレスチナのアラファト議長に住まいが半壊状態で、そこでアラファト議長は狙撃を警戒して外気に当たることもできない状態で過ごしていることを思いおこし、日本の平和がいかに重要な資産かを噛み締めました。

日本が戦後 70 年余の間平和国家に徹し、アジアの国との平和的発展のために ODA や企業の投資・貿易で貢献したということは、これも日本の資産の一つだと思います。そして、このことは、日米同盟や自衛隊の存在、経済力、技術力、文化力、そして地方レベル、個人レベルも含む他国とのつながりといった総合力の中で可能になっているのです。今後とも、こうした力を引き続きゆるぎないものとして伸ばしていけるかどうか、日本の未来がかかっていると思います。

なお、現在シリア内戦の渦中の人、バッシャール・アサド大統領ですが、その当時は、3 年前に大統領に就任したばかり、それも、本来大統領になるはずであった長男の事故死の後、眼科医から突然に大統領になった人物です。ダマスカスの街では、亡くなった前大統領で父親のアサド大統領の写真が圧倒的に多く、現大統領の写真はまばらでした。お目にかかったときの印象は、長身の、穏やかな感じの方でした。

【青年海外協力隊の隊員】

さて、シリア訪問中のひと時、当時の外務大臣シャラさんの奥様がダマスカスに近

いローマの遺跡にご案内くださいました。外相夫人は、青いスーツをお召しになった大柄の方でした。今どうしていらっしゃるかと時々考えます。道々、「最近では、働く女性はほとんどベールをつけません」などとお話してくださいました。

遺跡につくと、たまたま休みを利用して来ていた、日本の青年海外協力隊の皆さんと出会いました。

するとシャラ夫人は私にこう言いました。「日本はシリアに対して様々な援助をしてくれていて、私たちはそれをありがたいと思っています。ただ、シリアの一般の人にはそのことはわかりません。それがわかるのは、青年海外協力隊の若い人たちが、ここで様々な活動をしているからです。彼らは日本の外交の顔なのです。」

シリアに対しては、1969 年から青年海外協力隊を派遣し、累計で 565 人が派遣されました。うち、約 45% が女性でした。世界全体では、今まで 70 か国に対し累計で約 41,500 名が派遣されています。また、現在ではシニア海外協力隊という制度もでき、40 歳から 69 歳までの方を派遣していますので、日本の「顔」も多面的になりました。

青年海外協力隊も、シニア海外協力隊も本来の目的は技術の移転ですが、それに加えて、日本の個人と受け入れ国の個人とのつながりを作るといふ大事な役割を果たしてきました。親日国シリアを一層の親日国にしたという意味で、果たした役割は大きかったと思います。将来、シリアに平和が訪れたときに、この絆は必ずや意味を持つてくるとしています。

もっとも、青年海外協力隊事業にも問題がないわけではありません。

受入国から要望の多い分野は、1 位が人を育てる仕事（小学校教育、体育や柔道、理科教育、自動車整備、コンピュータ技師などの養成）、2 位が保健・医療、3 位が国・地域づくりに関わる仕事（計画や行政）などですが、多岐にわたるニーズに応えきれず、海外からの要望の半分も充足できていない状況です。その上、帰国後の就職が難しいなどの問題もあり、最近では（2009 年をピークに）志願者が減少している状況だと聞いています。

一方、インフラ整備という意味では、在外公館の存在が大事です。日本の在外公館の数は、最近かなり増えてきていますが、それでも、主要国である米、英、独、仏、露、中、の中では、英国と並んで一番少なく、例えば中国 270 に対して、日本は 220 です。

外交官の数も、日本は下から二番目の英国よりも約 500 名少ない 6,000 名弱です。ちなみに、中国は 9,000 名です。ⁱ

なお、米国はというと、在外公館数 280、外交官数約 29,000 名を誇っています。

「日本外交をつくるもの」として、これから基盤には、特に強化が必要だと考えています。

ところで、安倍首相になってから日本が健闘している分野があります。それは首脳外交のことで、特に日中首脳の外国訪問実績を比較するとわかります。

2013 年 1 月から今年の 8 月末までの 3 年 8 か月間の数字ですが、安倍首相の外国訪問回数は 44、訪問先数は 64、延べ訪問先数は 97 です。この数字は、同じ期間に、中国の国家主席と総理の二人が訪問した先数の合計とほとんど変わりません。

国会の制約があるなかで、大変な努力がなされているのです。

【電話線の取り換え】

最後にもう一つ。“驚愕の電話線の取り換え”についてお話ししたいと思います。

シリアを立つ朝、ホテルの部屋を出たところで、廊下に電話線のごときものが置かれ、据え付け工事が行われているのを見ました。「何をしているの」と聞いたところ、「明日、パウエル国務長官が到着するので、電話線を取り換えている」という返事が戻ってきました。英語で話した記憶があるので、もしかしたら、米国からの先遣隊の一員だったのかも知れません。米国は外交の機密を守るためにそこまでやっているのかということ強く印象付けられました。

時は流れて、今はインターネットの時代になりましたが、そこまで守っても、メールの流出などは起こっているわけで、外交のインフラ整備がいかに困難な課題かと思っています。

（了）